

大阪開催

# 諸領域における心理支援の知識と課題

2015年9月には公認心理師法が成立し、今後ますます心理職の資質の向上が求められています。日本心理研修センターでは、社会の求めに応じ信頼され視野の広い心理職を育成するために、多様なテーマで研修会を開催いたします。

【開催日】平成28年11月5日(土)・11月6日(日)(研修会開始30分前に受付開始)

【会場】大阪人間科学大学庄屋学舎

〒566-0012 大阪府摂津市庄屋1-12-13、JR京都線「岸辺」から徒歩10分、阪急京都線「正雀」から徒歩5分

【定員】合計 約500名

【参加費】1講座 6,000円

【参加資格】臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、他の心理系学会認定資格者、心理職実務者、守秘義務のある専門職、心理学関連大学院生

【ポイントについて】臨床心理士・臨床発達心理士・特別支援教育士：ポイントあり。学校心理士：申請予定。

【申し込み予約】一般財団法人日本心理研修センターホームページより (<http://shinri-kenshu.jp/>)

【共催】一般社団法人日本臨床心理士会、日本臨床発達心理士会、一般社団法人学校心理士認定運営機構、日本学校心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会

【後援】日本行動療法学会、日本発達心理学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人日本LD学会、一般社団法人日本発達障害ネットワーク(予定)

いずれの科目も、「心理職のスタンダード」科目指定を予定しています(裏面ご参照)

## <11月5日(土)>

### ●プログラム第1)「チーム学校」におけるスクールカウンセラーの役割 -チーム援助に焦点をあてて-

10:00-12:30 (1) 学校組織における援助チームのシステム

(2) 学校の資源を活用した援助チーム作り

(3) 援助チームにおけるスクールカウンセラーの役割

【講師】家近早苗

(大阪教育大学大学院連合教職研究科)

13:30-16:00 (1) 教師の被援助志向性とチーム学校

(2) 教師の被援助志向性を高めるカウンセラーの関わり方

(3) 事例分析 学校におけるチーム作り

【講師】水野治久

(大阪教育大学教育学部)

### ●プログラム第2) 心理職として産業領域で働くためには

10:00-11:40 企画主旨説明 及び 企業内から支援する心理職の活動と工夫

12:30-16:00 企業外から支援する心理職の活動と工夫、調査を活用した組織への支援と工夫 など

【講師】坊 隆史(株式会社島津製作所)

榎本正己(株式会社ジャパンEAPシステムズ)

高原龍二(大阪経済大学)

## <11月6日(日)>

### ●プログラム第3) ストレスマネジメント教育と応用行動分析の活用

10:00-12:00 ストレスマネジメントの基礎と実践 【講師】大野太郎(大阪人間科学大学)

13:00-16:00 応用行動分析による子どもの理解と働きかけ 【講師】日上耕司(大阪人間科学大学)

### ●プログラム第4) 動作法の基礎と実習

10:00-11:30 セッション1: 動作法概説

12:30-14:00 セッション2: リラクゼーション

14:00-15:30 セッション3: タテ系動作法

15:30-16:00 セッション4: 質疑応答

【講師】井村 修

(大阪大学大学院人間科学研究科)

実習のため、運動が可能な服装で参加してください

### ●プログラム第5) 発達障害のある児童生徒に見られる読み書き・算数障害の基礎理解と指導

10:00-12:30 学童期発達障害の基礎理解と最新情報

【講師】竹田契一(大阪教育大学名誉教授、大阪医科大学LDセンター顧問)

13:30-16:00 誤り分析で始める! 学びにくい子への国語・算数つまずきサポート

【講師】山田 充(大阪府堺市立日置荘小学校教諭 特別支援教育士スーパーバーザー)

## 【プログラム概要/受講のおすすめ】

<11月5日(土)>

### ●プログラム第1)「チーム学校」におけるスクールカウンセラーの役割 -チーム援助に焦点をあてて-

子どもの問題は多様化、複雑化している中、「チーム学校」として、教職員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフが協働し、家庭・地域と連携して、子どもの援助にあたるのが提唱されています。

本研修では、「チーム学校」における援助のシステムの活性化、援助チームの形成と活用におけるスクールカウンセラーの役割について学びます。学校の資源を活かすこと、教師の被援助志向性（助けられることに関する態度）に焦点を当てます。研修では、チーム援助の多様な事例を紹介し検討します。本研修は、学校心理学・コミュニティ心理学の視点からチーム援助の実践をしてきた講師が担当いたします。

### ●プログラム第2) 心理職として産業領域で働くために（仮）

昨今、産業領域への心理援助が注目されつつあります。ところが産業心理臨床を学ぶ機会はその多くありません。また「産業って難しそう」、「他の領域とは違う気がする」というような声を耳にすることがあります。そこで産業心理臨床の基本的な心構えを学ぶ研修を企画しました。

本研修は産業心理臨床の主要な活動領域である「企業内」、「外部 EAP」の心理職、「調査」を用いて組織の支援を行う実践者が登壇します。講師のそれぞれの立場から、働く人  
たちへの心理援助のコツを座学とワークを通して解説していきます。

産業心理臨床の実践者や初学者はもちろん、産業心理臨床に関心をお持ちの方のご参加をお待ちしています。働く人を支援する視点、援助者自身もひとりの働く人であるという視点は、全ての心理職がご自分の現場で活躍される際の大きなヒントとなることでしょう。

<11月6日(日)>

### ●プログラム第3) ストレスマネジメント教育と応用行動分析の活用

大人も子どももストレスを溜めている。そのように言われる現代において、個人がストレスを上手に管理することは重要な課題であり、私たち心理専門職が適切に対応していかなければならない目標です。昨今ではとりわけ事件・事故・災害などにおける被害者、被災者、支援者へのストレスマネジメントは心理専門職や関連職種にとって必要な知見であり、その基本を理解して取り組むことが求められます。また、さまざまな社会現象に対して多大な影響を受けやすい子どもたちに対しては適切な理解と働きかけが大人以上に必要となります。

本講座は、大人と子どもそれぞれへの対応について「ストレスマネジメント」と「応用行動分析」の基礎と実践について学ぶことを目的としています。

大人については、ストレスマネジメントの基礎を学び、義務化されたストレスチェック制度におけるストレスマネジメントの活用や、新たな認知行動療法におけるストレスマネジメントのあり方などについて理解を深めたいと考えています。

子どもについては、応用行動分析の基礎と実践法について詳しく説明し、とりわけ発達障害を持つ子どもへの理解と教育力を高められるようにと計画しています。

### ●プログラム第4) 動作法の基礎と実習

動作法は臨床動作法とも呼ばれ、わが国で独自に開発されてきた、からだから心へアプローチするユニークな心理臨床の技法です。動作法が誕生してから約50年が経過します。当初は主として動作不自由の改善を目的にしていた。しかし、動作の改善だけでなく、注意の共有や意図の理解、コミュニケーション能力の向上、能動性促進や安心・安全感の獲得などに効果があることが確認され、多様な障がいをもつ子どもたちや、心身症や心理的問題を抱える成人、高齢者や運動選手なども動作法の適用対象となっています。技法的には、リラクゼーション課題、タテ系動作課題、腕あげ技法を中心としたコミュニケーション動作課題に分類されます。実習編では、代表的な動作課題をペアで実践していただき、自分のからだを通し理解を深めていただきます。受講希望者は、必ず動作法の実習ができるような、運動が可能な服装でご参加ください。

### ●プログラム第5) 発達障害のある児童生徒に見られる読み書き・算数障害の基礎理解と指導

発達障害等に対する特別支援教育が本格的にスタートして10年目に入りました。今回は、発達障害の児童生徒に高頻度で見られる読み書き算数障害についての基礎と実践講座です。読み書きの問題は自閉スペクトラム症、ADHDなどにも合併しやすく学校生活の中での大きな問題となっています。日常的に使っている日記、作文、ノート、テストを基にその中の誤りの傾向を分析して学習支援につなげていく方法です。また、発達障害に対する新しい見方、特性理解、具体的な対応についてやさしく講義します。

上記プログラム（講師、テーマ、時間等）は予告なく変更される場合があります。最新のプログラムはホームページをご覧ください

#### ※ 心理職のスタンダード

2015年9月には公認心理師法が成立し、今後ますます心理職の資質の向上が求められています。

公認心理師法第43条に定められた「資質向上の責務」を担保するため設置した研修制度です。

日本心理研修センターでは、各領域における心理職が最低限知っておかなければならない項目を網羅した研修のスタンダードを作成中です。公認心理師法施行後、公認心理師試験前にはHP上にてスタンダード体系を発表する予定です。